

授業規律の確立による教師の授業力・生徒の学習意欲に関する研究

～授業規律を確立することで生徒の学習意欲、教師の授業力が向上する～

千葉県立成田国際高等学校教諭 田口 富一

1 研究の背景

中央教育審議会（平成20年1月）では、「子どもの自主性を尊重するあまり、教師が指導を躊躇する状況が見られる」と指摘されている。しかし、体育の授業は机や椅子がなく広い空間で動きながら学習することなど、授業規律の積極的な指導は重要である。授業規律に関する研究は、小中学校では多く見られるが高等学校では少ない。

「よい授業」、つまり生徒の学習意欲と教師の授業力の向上が、現在求められている。授業規律が確立されている状態とは「学習活動のルールやマナーが浸透しており授業によどみない勢いがある」と定義され、具体的には、「授業の約束事がしっかり決められている」「集団行動が徹底され規律が確立している」「教師が積極的に個々の生徒に関わり、称賛・助言・励ましを行っている」「生徒がお互いにアドバイスしたり、励ましたり、補助したりして温かい関係が成立している」とされている。

2 研究の目的

体育授業における授業規律の指導とよい授業のかかわりについて検討する。
本研究では授業規律の指導と以下の3つの関係を明らかにする。

- (1) マネジメント場面の時間
- (2) 生徒の学習従事状況
- (3) 教師及び生徒の授業評価

3 研究の方法

(1) 授業規律に関する指導方略の仕掛け

①授業規律の確認をホワイトボードで行う。（体育授業の約束ごとの例）

（ア）時間を守る（イ）チャイムで整列する（ウ）用具の準備を休み時間に行う（エ）体育係りの指示で進める（オ）返事をする（カ）お辞儀の姿勢は90度（キ）移動は駆け足（ク）話を聞く時はその人の方向を向く
--



ホワイトボードに書いて出来ている状態を赤・黄・青で随時評価をおこなう。この評価は生徒がおこなってもよい。



お辞儀の姿勢は90度

②教師の積極的な声かけ

(ア) 肯定「早いぞ」「うまいぞ」「できているぞ」(イ) 矯正「それでいいか?」「違う方法はないか?」(ウ) 励まし「何秒で集合できるか」



教師が積極的に声にする。

(2) 学習時間の分析

期間記録観察法(授業において生じた場面の観察)を用いて授業場面の割合を捉える。

4つの授業場面

(ア) 認知学習 A 1 : 作戦会議や学習カードの記入など (イ) 運動学習 A 2 : 練習、ゲーム、準備運動など (ウ) 学習指導 : 教師の指示、説明、演示など (エ) マネジメント : 用具準備、後片付け、移動、待機など

※運動学習場面 60%以上でマネジメント場面 20%以下が望ましい。

(3) 生徒及び教師の授業評価の分析

形成的授業評価:授業成果を4因子9項目より捉える。これは生徒の授業評価の分析(アンケート形式)をおこなうものとする。

4因子

(ア) 成果(感動体験・技能の伸び・新発見)
(イ) 意欲・関心(精一杯の運動・楽しさの体験)
(エ) 学び方(自主的学習・めあて学習)
(オ) 協力(仲良く学習・協力的学習)

9項目

ア) 深く心に残ることや、感動することがあった。(イ) 今までできなかったこと(運動や作戦)ができるようになった。(ウ)「あっ、わかった!」とか「あ、そうか」と思ったことがあった。(エ) 精一杯、全力をつくして運動することができた。(オ) 楽しかった。(カ) 自分から進んで学習することができた。(キ) 自分のめあてに向かって何回も練習することができた。(ク) 仲間と協力して、仲良く学習できた。(コ) 仲間とお互いに教えたり、助けたりした。

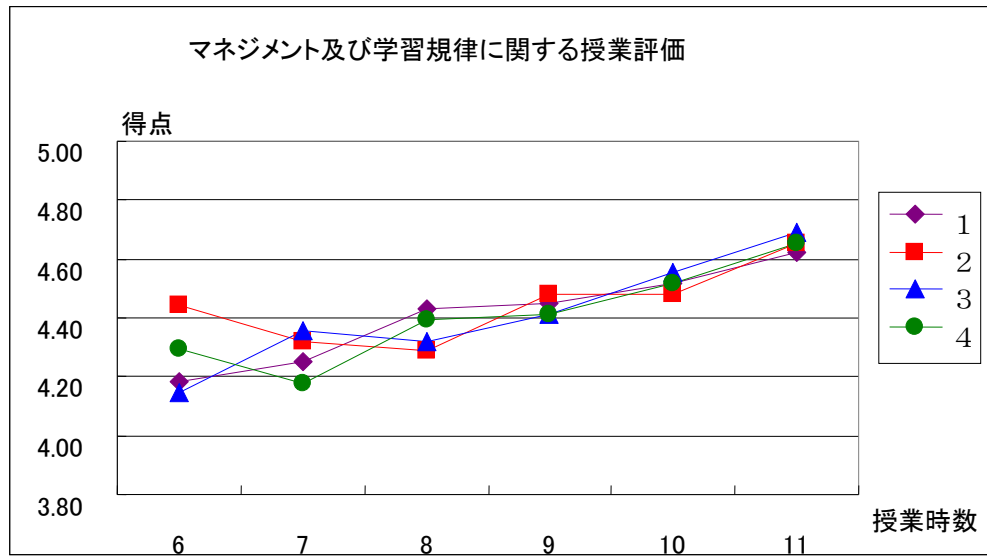
4 研究の成果

(1) 生徒による授業評価

1授業全体を通してスムーズに動けた<展開>
2先生の準備や移動に関する指示はわかりやすかった<指示>
3準備や移動を素早くできた<準備・移動>
4約束事が守れていた<約束事>

以上の質問を授業直後に実施した結果を次に示す。この調査は授業直後にアンケート用紙に記入する形でおこなった。

図 1 生徒による授業評価



準備や移動を素早くできた、という評価が 6 時間目より 11 時間目の方が高かったことが認められた。加えて、他の項目においても、有意な差はみられなかったが、上昇していく様子が見られた。本検証授業の教師は、授業において、ベースライン期に矯正的なフィードバック行動を多く行っていた。それゆえ、介入開始時に授業評価が低かったこと、及び、介入期において授業評価が上昇していった背景には、教師の相互作用行動の影響が考えられるのである。このことから、先行研究で生徒による授業評価は教師のフィードバックに影響をうけると指摘されていることを改めて確認するとともに、高等学校の体育授業においても教師の肯定的な相互作用行動の影響があると考えられる。

(2) 教師による授業評価の結果

1 授業の場面展開が、スムーズに行われていた＜展開＞

2 移動や待機の場面が少なかった＜移動・待機＞

3 授業の約束事が、守られていた＜約束事＞

以上の質問を授業直後に実施した結果を次に示す。この調査は授業直後に録音する形でおこなった。回数が進むにつれ調査の意識が自然体になった記憶がある。

表 2 教師による授業評価（マネジメント及び学習規律に関する内容）

授業時数	項目	内容
5	1	これは非常に展開スムーズでした。
	2	少なかったと思います。
	3	これちょっと徹底できませんでした。
6	1	授業の場面展開はスムーズだと思いました。
	2	移動や待機の場面はまあ少なかったと思います。
	3	授業の約束事が守られていたとまあまあ思います。
7	1	展開がスムーズだったと思います。

	2	んーそうですね、待機は攻撃している時は待機になるのでそれを含めなければよかったと思います。
	3	約束事はほぼ出来ています。
8	1	授業の展開がスムーズだったと思いますが、もうちょっと頑張れると思います。
	2	移動や待機の場面は少なかったかと思いますが、むしろ少し忙しかったです。大変よく当てはまる。
	3	約束事は守られてきました。
9	1	まあ完璧とはいえませんが、まあまあ以前よりはよかったかなと思っています。(4)
	2	待機の場面は必然的に多くなってしまいました。
	3	これはゴだろうと思います。(5)
10	1	大変よく当てはまる。(5)
	2	大変よく当てはまる。(5)
	3	大変よく当てはまる。(5)

介入期に教師による授業評価が徐々に上昇していく様子がみられた。これは表に示した教師の発言から読み取ることができる（網かけ部分）。また、教師による授業評価の上昇と対応するように生徒による授業評価も上昇していた。すなわち、授業においては、教師と生徒が共に、授業のマネジメント及び学習規律に関する生徒の一般的な行動が改善されたと評価していたということである。さらに、マネジメント場面の時間的割合は、介入期において 20%を越えたところで抑えられていた。この事実は次の示唆を与えてくれるであろう。すなわち、高等学校段階においても教師が生徒の一般的な行動に対して意図的に指導を行い、さらにそこで肯定的な相互作用を行うことが、マネジメント及び学習規律といった基礎的条件の成立に寄与するというものである。

5 まとめ

体育の授業規律の確立は、生徒の学習意欲、教師の授業力に有効であると考えられる。今後の課題として、体育授業の改善が、日常生活に与える影響について検討する。